Bull. Mukogawa Women's Univ. Humanities and Social Sci., **50**, 75–83 (2002)
武庫川女子大紀要(人文・社会科学)

連続放火少年のTAT反応を読む

斉 藤 文 夫
(武庫川女子大学文学部人間科学科)

An Interpretation of the TAT responses Produced by a Juvenile Serial Arsonist

Fumio Saito

Department of Human Sciences, Faculty of Letters, Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663-8558, Japan

Abstract

This is a case report of personality assessment of a juvenile serial arsonist (male, high-school student, 16 years of age, IQ=96) by the use of the Murray's Thematic Apperception Test (TAT). Twelve cards of the TAT were administered and the responses were interpreted to indicate the following characteristics of his personality : obsessive and monomaniac tendency; belittled self-image; omnipotence phantasy and weakness of reality testing; oral aggression, primitive impulse and weakness of ego control. Some of these characteristics were also observed from his data of the Rorschach test. It was discussed that presumably such deviated personality characteristics were closely related to his serial anti-social behavior.

Keywords: arson, juvenile offender, personality assessment, TAT

はじめに

平成13年7月17日付け朝日新聞朝刊に，次のような記事が掲載された．

「— 86歳が焼死，4月東京での火事．小6男児，放火の疑い．

東京都A区で今年4月に住宅が全焼，女性1人が死亡する火事があり，警視庁は16日，A区に住む区立小学校6年の男児(11歳)を現住建造物等放火などの疑いで児童相談所に通告した．男児は「小学5年の春に転校してきて上級生にいじめられ，むしゃくしゃして放火した」と認めているという．ほかにも3月から5月にかけて，自転車のカバーや郵便受けのチラシなどへの放火4件についても認めているという．‥‥‥男児は4月2日午後3時半ごろ，A区B町4丁目の無職Xさん(当時86歳)宅外壁にあったごみ袋に，段ボールを立てかけてライターで火をつけ，木造平屋建ての住宅約95平方メートルを全焼させた疑い．家にいたXさんが焼死した．」

同記事によると，小学校6年生の放火の動機は「上級生にいじめられ，むしゃくしゃした」ことであったらしい．むしゃくしゃした気持ち(不満，あるいはそこから生じた敵意ないし攻撃心)がその本来の相手である上級生(あるいは，学校当局者)に直接的に向かわず，全く無関係ともいえる近隣の住宅に放火するという行動が生じている．犯罪心理学でいう「攻撃対象の転位」である．その結果，86歳の女性が焼死するといういたましい事件が起こった．放火はしばしば鬱屈した攻撃心から生じるが，パーソナリティーの未発達な者の放火では，こうした攻撃対象の転位もしばしば生じる．

平成12年11月28日付け朝日新聞朝刊にはまた，次のような記事が掲載された．

「— 大阪　学校の不審火8件目．X高も被害，本格捜査へ．

大阪府A市B町4丁目の○立X高校で，グラウンドの倉庫北側に置いてあったマットの一部やラグ

ビーボールが燃える不審火のあったことが27日，わかった．同府A市地域では22日以降，A，B，Cの各市で不審火が続発しており，X高で8校目．いずれも現場付近に火の気がないことから，大阪府警は同一人物による連続放火とみて，本格捜査に乗り出した．調べによると，27日午前8時50分ごろ，X高校庭の資材置き場で，巡回中の学校職員が，燃えた約1メートル四方のウレタンスポンジとラグビーボール1個を見つけ，A署に通報した．24日夕には異常はなく，それ以降に燃えたとみられる．……」

同記事によると，A，B，Cの3市が隣接する地域のいくつかの学校で7件の不審火が続き，さらにX高で8件目の不審火があったという．狭い地域内での不審火の続発であり，ほぼ間違いなく同一犯人による放火であろう．この事件の犯人は未だ捕まっていないようだが，犯人はおそらく学校と何らかの「接点」のある者であろうと思われ，未成年者による放火であることも推測される．

ところで，犯罪統計を見ると，少年放火犯の年間検挙人員は，近年ほぼ200人ないし250人程度の水準で推移しており，顕著な増減は認められない．ピーク時に比べると検挙人員は3分の1以下になっている．

本稿は，連続放火少年の人格査定の事例報告である．ここでは，その少年のTAT資料を掲げ，その所見から少年の人格特性ないし心理力動を考察するとともに，それを踏まえて，ロールシャッハ・テストの資料とも突き合わせて検討する．一例報告ではあるが，放火少年の心理的特性を考える上で多少とも資するところがあれば幸いである．なお，執筆にあたっては，事例が特定されないよう十分に配慮した．

事例の概要

1　事　　例：　男子少年（高校2年生．16歳．IQ＝96．狭義の精神障害を認めない）
2　本件非行：　非現住建造物放火（母校への放火を反復したもの）
3　家族構成：　実父母，同胞2人と本人の5人家族．
4　生 育 歴：　正常分娩，母乳保育．幼少時期，著患なし．小中学校では，数日程度の病欠があるが，特に問題なく通学していた．成績は，中位ないし中の下．身体がやや小さいため，いじめられっ子であったらしい．高校2年生時，窃盗（万引き）があるが，警察訓戒で終局している．

この事例は，斉藤（2001）[1]で報告した事例と同一のものである．本事例の非行概要，家族歴，生育歴，ロールシャッハ・テスト所見などは，その文献を参照されたい．

TAT所見

観護措置期間中に，少年鑑別所内にて，資質鑑別を目的として施行した．マァレー版TATを12枚施行した．使用図版は，1，2，3BM，6BM，7BM，8BM，11，12M，13MF，15，19及び20である．以下，図版ごとの解釈は省略し，全体を通して特徴的と思われる点をまとめることとする．

1　認知様式の特徴

細部認知としては，2図において背景の小さな家を認めている．また，11図において橋の上の小さな人物を認め，「大急ぎで逃げようとしている」と見ている．これらはいずれも，かなり敏感で，細部固執的な認知であるといってよい．

主要な事物の見落とし（omission）として，これといった顕著なものはない．しいていえば，3BM図でピストルの見落としがある．ピストルの見落としは精神分析的な象徴解釈も可能ではあるが，本事例の場合，粗雑な外界把握（認知）のため，見落としたと考えてよいだろう．なお，全反応を通して，奇異・奇矯な認知の歪曲（distortion）はない．病的な外界認知の歪みは否定される．

以上のことから，外界把握（認知）の様式について，病的な歪みは否定できるものの，やや過敏で，細部にこだわる面のあることが指摘できよう．

本事例の認知様式のもうひとつの大きな特徴は，複数の図版を通してひとつの物語が語り継がれるとい

うことである．3枚の図版(12M図，13MF図，15図)にわたって長大な復讐物語が語り継がれていることが注目される．また，3BM図と6BM図の物語も連続している．このように，複数の図版にまたがってひとつのテーマを語り継ぐことは，保続性(ひとつの着想が頭から離れず，思い込みがいつまでも強く保持されること)，あるいは固執性や偏執性(ものごとにこだわり，視野狭窄となって，ほかのことが考えられなくなること)の顕著な指標であると考えてよい．

2　家庭状況

家庭状況を推察する上で手がかりになりそうな反応は，以下のものである．

(1)　両親が音楽家で，子どもにもバイオリンをやらせようとしている．バイオリンをどうしようか，弾けるかどうか悩んでいる(1図)

(2)　この家のおじょうさんと雇われているふたりの人(2図)

(3)　好きな人と結婚したいが両親に反対され，自分の部屋でひとりで泣いている(3BM図)

(4)　船が嵐に会って沈みそう(19図)

これらのうち，(1)や(3)から推察すれば，家庭では望まない課題を親から強制されたり，自分の考えや希望を親には認めてもらえないといった状況があるのだろう．(2)に関して，2図における3人の人物を「おじょうさん」と「使用人」と見ていることは，家族の情緒的結びつきの希薄さを暗示しているのであろうか．また，(4)に関して，19図における「船」が「家庭」の象徴であると仮定すれば，家庭という船が沈没してしまいそうな危機的状況にあることを語っているのかもしれない．

3　父親像・母親像

父親像につながると思われる空想は，以下のものである．

(1)　会社の上司が部下に何か仕事を頼んでいる(7BM図)

(2)　残念無念と思いつつ，息子は悪人らに殺された．その息子の死を悲しむ父親(12M図)

(3)　残念無念と思いながら殺された息子の怨みを晴らし，父は息子の墓前に報告する(15図)

これらの反応において，7BM図のふたりの男性は同じ会社の上司と部下にみなされている．この反応が本事例における父･息子関係を下敷きにした空想であるとすれば，父･息子の結びつきは強いといえるのかもしれない．また，12M図では，残念無念と思いつつ殺された息子のことが語られ，さらに15図では，その息子の怨みを父親が晴らし，父親はそのことを息子の墓前に報告するという．ここでは，「お父さんが悪人のことを世間に公表し，死んだ息子の思っていたことを実行」してくれるという．父親は死んだ息子の無念の思いを晴らし，悪人を退治するいわば「ヒーロー」として登場している．父親は強い頼りになる存在としてイメージされているようでもある．父親を理想化し，父親に対してはかなりポジティブな感情を抱いていることが考えられる．

次に，母親像につながると思われる空想は，以下のものである．

(1)　身分の低い男の人が娘との結婚を望んでいるが，娘の女親はそれを拒否している(6BM図)

(2)　好きな男との結婚を両親に反対され，ひとり泣いている女の人(3BM図)

使用図版が少ないこともあろうが，母親イメージが語られているのは6BM図だけである．この図版での物語に登場する母親は，男の人の願望を拒絶している．この「女親」や「男の人」は本人の母親や自己像が投影された人物であろうか．もしそうであるとすれば，本事例の母親は，本人の望みや願いを無視し，拒絶する存在でもあるのだろう．ちなみに，3BM図でも，娘の結婚に反対する「両親」が登場しているが，ここでの「親イメージ」も母親と結びついたものなのだろう．

6BM図での空想物語の中で，「男の人」は「身分の低い人」であるという理由から，結婚を拒絶されている．本事例は，母親から卑小な存在として見下されているのだろうか．いずれにせよ，こうした空想からすれば，本人は母親に対してあまりよいイメージをもっておらず，むしろ潜在的には反発や不満といったネガティブな感情を抱いているようにも思われる．

4　自己像

自己像に結びつくと思われる登場人物を列挙すると，次のとおりである．

(1)　親にバイオリンをプレゼントされたが，あまり楽しくない(1図)

(2)　好きな男の人といっしょになりたいが，両親に叱責され，ひとり泣く女性(3BM 図)
(3)　娘との結婚を娘の女親に反対され，断られた身分の低い男の人(6BM 図)
(4)　鉄砲で撃たれて手術を受けた自分．その後，復讐に赴き，相手を鉄砲で撃つ(8BM 図)
(5)　英雄が怪獣を退治してしまう．でも，まだその英雄は現れていない(11 図)
(6)　悪人に監禁され，殺されてしまった息子．その父親が息子の死を悲しんでいる(12M 図)
(7)　悪人に自分の恋人を殺害された．悪人を倒そうとするが，逆に捕まって牢屋に入れられ，残念無念だが，殺されてしまう(13MF 図)
(8)　悪人に殺され，お墓に入った息子．父親が息子の仇を討ち，墓前に報告する(15 図)
(9)　海が荒れていて，船は嵐に会って沈みそう(19 図)
(10)　雪の降る夜，街灯の下でだれかと待ち合わせをしている人(20 図)

これらが，自己像を投影していると思われる登場人物やその物語である．いくつかの特徴的な点を指摘することができるだろう．それらの特徴を，以下の小節において吟味する．

5　両親と本人との葛藤的関係

上記の(1)，(2)，(3)はいずれも，両親との葛藤的関係を示唆する反応である．1 図では，音楽家の両親が自分の息子にバイオリンをプレゼントでするが，息子は「あまり楽しそうな顔をしていない」という．息子は「バイオリンをどうしようかなって考えて」おり，「自分にもバイオリンが弾けるかどうか悩んでいる」という．3BM 図では，好きな男の人との結婚を両親に反対され，叱責され，「自分の部屋でひとり泣いている女の人」がいる．さらに，6BM 図で登場する「身分の低い男」は，女性との結婚を女性の母親に断られ，困惑している．

こうした空想物語から推測すれば，本事例は，両親との間に何らかの葛藤があるのかもしれない．両親は自分の望まないもの(1 図における「バイオリン」)を押しつける，あるいは自分の希望や願い(3BM 図や6BM 図における「結婚」)に反対すると感じており，本人の希望や夢を拒否する存在として受けとめられていることが推測される．

6　怨恨と復讐のテーマ

上記の(4)，(6)，(7)，(8)では，強い怨恨の感情が表出されるとともに，復讐のテーマが語られている．

8BM 図では，鉄砲で撃たれた「自分」が手術を受け，その後自分を撃った相手に「復讐をしに行く．それで，相手を鉄砲で撃ってしまう」という空想が語られた．12M 図では，牢屋の中で息子は悪人に殺され，それを見つけた父親が「すごく悲しんでいる」と空想する．13MF 図の物語は，その「前編」になっており，「悪人に自分の恋人を殺された」男が「自分の手で悪人を倒したい」と「復讐」に赴いている．しかし，逆に悪人らによって捕らえられ，「残念無念」と思いつつも「自分」は殺されてしまう．さらに，15 図の物語は，その「後編」となっており，父親が「悪人のことを世間に公表し，死んだ息子の思っていたことを実行」してくれるという．そして最後には，父親が息子の無念を晴らし，墓前にそのことを報告してくれるという．

この長い復讐物語に登場する人物(「自分」あるいは「息子」．本人の自己像の投影と思われる)は，悪人どもに恋人を殺されたので，その復讐に赴くが，返り討ちにあって自分も殺されてしまう．そこに父親が登場し，父親は仕返しをやり遂げ，怨みを晴らしたことを息子の墓前に報告してくれる．復讐に赴くがそれを遂げないままに殺された男の，そのまた復讐を父親が果してくれるという筋書きである．こうした強い怨恨と復讐，あるいは怨嗟と報復のテーマは，本事例の特徴であるといってよいだろう．

7　怨恨と復讐の正当化

怨恨を抱き，相手に復讐する登場人物の行動が正当化されている．8BM 図で「相手を鉄砲で撃ってしまう」という復讐のきっかけは，「相手」が「自分」を鉄砲撃ち，「(自分に)けがをさせて逃げてしまったから」であり，「相手」に対する復讐は正当化されている．12M 図，13MF 図及び 15 図の長大な復讐物語においては，悪人どもは「恋人の女の人を殺してしまう」のであり，かれらは「悪い政治家(たち)」でもある．復讐に赴く男は「悪い政治家どもの悪事を世間に広く知らせようとする」のである．ここでも復讐は正当化されているといえよう．

こうした反応から推察するに，本事例は，本件放火についても「悪いのは自分ではない，本当に悪いの

は自分をそこまで追い込んだ相手たち(学校や学友)である」という思いを強く抱いているのかもしれない.

8　ヒーロー待望と幼児的万能感

上記の(5)と(8)では，ヒーローを待望する思いが語られている．上述した復讐物語では，父親が悪人どもを退治するヒーローとして登場している．11図ではまた，「英雄が出てきて，怪獣を倒してしまう」という．ただし，ここでは「まだ英雄は出ていない」とのことであるが･･･.

こうしたヒーロー待望は，幼児的万能感の反映であろう．この種の空想を語る本事例は，自分もいつかはヒーローになりたい，あるいはヒーローが自分を救ってくれるといった幼児的な万能感幻想を抱いているのではないだろうか．非行少年には，この種の幼児的万能感を伴う空想物語を語る者が多く，こうした幼児的心性や空想性(言いかえれば，現実吟味力の弱さ，空想と現実の混同)が非行と結びついていることも多い．本事例の放火も，その犯行心理の背景には，幼児性あるいは空想性があると思われる.

9　口唇攻撃のテーマ

TATにおいて「噛みつく」「くわえる」「呑み込む」「食らう」といった攻撃的な空想が語られることがある．口唇攻撃のテーマとは，そうした反応のことをいう．本事例では，11図において典型的な口唇攻撃のテーマが語られている．ここでは，「怪獣」が登場し，その怪獣は生けにえの動物を「食べて」しまう．生けにえを置いた人は「(自分も食べられてしまうことを恐れて)大急ぎで逃げる」という.

TATにおける口唇攻撃のテーマは，口唇期における愛情欲求が満たされず，そうした欲求不満が背景にあって攻撃行動を表出する者にあらわれることがある．口唇攻撃性を持つ人は，「人を食った」り，「人に噛みつく」ことがある．いわば「窮鼠，猫を噛む」といった思いがけない反撃行動に出る．本事例にあっても，口唇期における愛情欲求不満がそのままに持ち越されていることが考えられる．推測するに，幼児期における母親との関係に何らかの問題があったのではないかとも思われる．ただし，この点について，本人自身や保護者との面接調査からは，手がかりとなるような情報は得られなかった.

10　原始的攻撃性

たいていの人は，敵意や攻撃性をさまざまに加工し，社会的に許容されるような形に変えて表出する．それに対し，原始的攻撃性とは，社会化されないままの未分化な攻撃衝動のことをいう．本事例においては，11図に登場する「生けにえを食べてしまう怪獣」や，19図における「荒れる海，船を沈めてしまう嵐」といった空想は，そうした原始的攻撃衝動の象徴的な表現とも思われる．後述するように，本事例のロールシャッハ･テストでは，無生物運動反応が多発していた．そのことを考え合わせると，本事例は，自我による統制が弱く，原始的な攻撃性を短絡的に表出しやすい一面があることが推測される.

11　自己イメージとしての「沈みそうな船」

最後に，「海が荒れていて，船は嵐に会って沈みそう(19図)」という反応について考えてみたい．この「沈みそうな船」は本人と家族を乗せた船であるようにも思われるが，本人の自己像であるのかもしれない．ここで，本事例のSCT(法務省式)の資料を掲げると，少年用第1形式(資料2)及び第2形式(資料掲載せず)に，次のような反応が見い出される.

(1)　こどものころ　……　川に落ちた(第1形式)

(2)　忘れられないのは　……　川に落ちたこと(第1形式)

(3)　今でもはっきりおぼえているのは　……　川に落ちたこと(第2形式)

川への転落事故は，本人供述によると，保育園時代のエピソードであるという．このことがきっかけで，本人はその後も長く水を恐れたという．また，学校で夏の水泳の時間に，友達らにプールに突き落とされていじめられていたことも想起している．こうしたエピソードを重ね合わせると，19図における「船が沈む」という空想は，川やプールで溺れそうになったときの恐怖体験と関係しているかとも思われてくる．水にまつわるSCT反応を考え合わせると，「沈みそうな船」は，やはり本人の自己イメージであるのかもしれない.

まとめ(TATとロ・テストの突き合わせ)

最後に，TATとロールシャッハ・テストの資料を突き合わせつつ，本事例の人格特徴や本件非行の心理機制について考察する．なお，参考として，バウム・テスト(資料3)を添えた．

1 本事例の人格特徴

中田(1969，1980)[2)3)]は，放火犯人に最も特徴的な人格特徴として過敏性と無力性を指摘する．過敏性とは「小心，内気，発散されない感情の蓄積」及び「正直，真面目，劣等感，邪推や曲解」を特徴とする性格であって，「些細な屈辱的体験から偏執的態度に発展して放火する」という．無力性とは「神経質，身体的不調，不充足感」を特徴とし，「過敏型と近縁で，情熱的，激情的な放火におもむきやすい」という．

こうした観点から，本事例の人格特徴をみると，過敏性はあてはまっているといえる．ロールシャッハ・テストで多発した「顔」反応や「服飾」反応(サングラス，ヘルメット，スカートなど)はいずれも，対人場面における過敏さや傷つきやすさ，見えを気にすること，劣等感や防衛的態度を示唆するものであって，過敏性の指標と考えてよいだろう．TATでみられた細部認知(2図における「家」，11図における「逃げる人」)もまた，細部への過敏さを示唆している．

無力性という点に関しては，ロールシャッハ・テストで動物運動反応が欠けていたことや，人間運動反応に躍動感が欠けていたことは無力性の指標とも考えられる．しかし，この点については，TATの所見からは，はっきりとしたことはいえそうにない．

本事例におけるもうひとつの特徴は，固執性ないし強迫性である．ロールシャッハ・テストで同種反応が反復されたこと(斉藤(2001)[1)]を参照)や，TATで複数の図版をまたがってひとつの空想が語り継がれたことは，固執性や強迫性の顕著な指標といってよい．さらに，ロールシャッハ・テストでみられたWc反応やS反応，TATでみられた細部固執的認知(2図の「家」，11図の「逃げる人」)は，自分本位の思い込み，独特な外界把握傾向，細部へのこだわりを示唆する．これらの反応特徴を重ね合わせると，ささいなことにこだわりやすい，ものごとを邪推・曲解しやすい，強い思い込みから視野を狭窄化させやすい，といった人格特徴が浮かび上がってくる．こうした偏執性や強迫性が，本件連続放火と結びついていると思われる．

本事例のロールシャッハ・テストでは，「血がベチャーッ」(カードⅡ)，「燃え上がる火」(カードⅢ)，「血が垂れている」(カードⅢ)，「もくもくした原爆のきのこ雲」(カードⅧ)，「花火がパンパンとあがる」(カードⅩ))といった無生物運動反応が多発した(斉藤(2001)[1)]を参照)．これらは，TATにおける「怪獣」(11図)や「荒れる海」(19図)ともつながるものであり，いずれも自我によって統制されない衝動性の指標であろう．精神分析でいうエス層にある未分化かつ原始的な衝動が，自我によって統制されないままに発現しやすいことが考えられる．衝動を社会的に承認される形に変容させつつうまく発散することができない人であり，本件放火は未分化な攻撃衝動の短絡的な表出ともいえよう．

2 犯行の動機と心理機制

本件放火の動機は，学校や学友らに対する怨恨・復讐であると考えられる．怨嗟の感情が直接的に教師や学友らに向かわず，学校という建物に対する破壊行動が惹起されたのは，攻撃対象の「転位」があったものと考えられる．

本人は，本件非行の1月前，スーパーの玩具売り場で万引きをして見つかった．この万引き事件そのものは，金銭的な弁済がなされたことから，警察訓戒で終局した．しかし，学校では自宅謹慎を言い渡されるとともに，「万引き事件」は広く学友らにも知れ渡ってしまった．みんなから「ばか，もっとうまくやれ」などとからかわれたという．そのため，本人は学校と学友らに対する強い不満・怨嗟の感情をうっ積させたにちがいない．

こうした状況を背景として，放火が着想されたのであろう．いったん放火が「成功」するや，事件は「火曜日の放火魔」として地元の新聞やテレビに大きく取り上げられ，学校中が騒然とした状況におちいった．ここにおいて，本人は「自分もたいしたことができる，自分はこれだけの大事件をやりとげた，自分もすごい男だ」といった幼児的な万能感幻想に心酔(?)したのであろう．放火の「成功体験」が，みじめな自分を

忘れさせ，自分が「ヒーロー」にでもなったかのような高揚感を味わったのであろう．そうした精神状況において万能感幻想がさらに高まり，放火を反復していたものと推測される．

3　放火の着想

それにしても，なぜ放火が着想されたのだろうか．この点につき，本人は，当時の人気テレビ番組(ふだんは気の弱い男が夜になるとスーパーヒーローに変身し，悪人どもを退治する話)を見ていて「突然，放火を思いついた」と，供述した．しかし，ふつう，学校に恨みを抱く生徒であっても，せいぜい石を投げて窓ガラスを破損する程度の行動で終わるものである．もちろん，教師や生徒らに直接的な暴力をふるう者もいる．なぜ，本事例においては，わざわざ放火という行為が選択されたのであろうか．

ここで，心理検査のデータを見ると，ロールシャッハ・テストでは「燃え上がる火」(カードⅢ)，「原爆のきのこ雲」(カードⅧ)，「花火」(カードⅩ)といった「火のテーマ」が語られ，一方，TATとSCTでは「水のテーマ」が語られている．全くの偶然であろうが，こうした火と水のテーマは，あるいは本件放火とも関連しているのであろうか?

本事例の攻撃衝動は，自我によって統制されない原始的なものであったと思われ，そうした原始的攻撃衝動が「火」と結びつきやすいことは考えられる．また，小心な本少年は，直接的な攻撃行動に出ることができず，放火を着想したともいえよう．さらに想像をたくましくすれば，本人がかつて川で溺死しそうになったり，プールに突き落とされていじられたりしたことも関係しているのかもしれない．本人は，こうしたことがきっかけで「水を恐れる弱虫」という卑小な自己イメージを持ったのであろうか．(ちなみに学校でのあだ名も「虫」であった.)そうした自己イメージを否認したいというあがきが，放火の着想と関連していることも想像される．いわば「水」にまつわる卑小な自己イメージを「火」によって燃やし尽くし，幻想的・空想的な世界で，強い男としての自己像を幻視しようとしたのかもしれない．ギリシャ神話のプロメテウスは，火をわがものとすることで英雄となる．火を放つという行為は，本少年の万能感幻想と深く関わっていたのかもしれない．

4　家族内の病理

TATやロールシャッハからは，さまざまな家族内病理も推測できそうだ．しかし，本人及び保護者との面接調査や各種関係資料からは，そうした家族内病理の裏づけとなるような所見は得られなかった．

以上，TATの所見及びロールシャッハ・テストとの突き合わせを踏まえて，連続放火少年の人格や心理力動を考察した．もちろん，この種の心理検査の所見や解釈はあくまで仮説的・暫定的なものである．しかし，こうした心理検査のデータを吟味することで，本事例の人格特徴や犯行の心理力動についての理解が深まったと思われる．なお，本事例は，家庭裁判所の審判において，狭義の精神障害は否定されたものの，長期にわたる矯正教育が必要であるとされ，中等少年院送致が言い渡された．

引用文献

1) 斉藤文夫　2001　ロールシャッハ・テストによる連続放火少年の人格査定　武庫川女子大学紀要(人文・社会科学)　49巻　pp.47-55.
2) 中田修　1969　放火人の犯罪心理学的研究　岩井弘融ほか(編)　日本の犯罪学第2巻　pp.461-468.　東京大学出版会
3) 中田修　1980　連続放火の犯罪学的研究　平野龍一(編)　日本の犯罪学第5巻　pp.286-294.　東京大学出版会

資料1　TAT

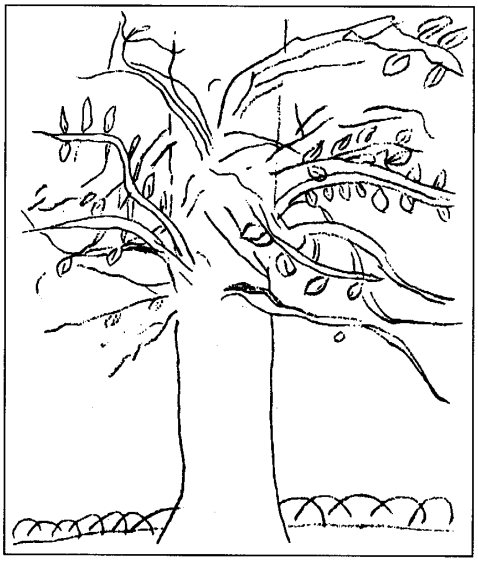
図　版	反　応　の　プ　ロ　ッ　ト
1	･･････今，あのう，誰だか…両親にバイオリンをプレゼントしてもらって，包みを開いて，バイオリンだって見ているところ．････えーっと，どんな感じかな，何かあまり楽しそうな顔をしていないけれど････．このバイオリンをどうしようかなって，自分で考えている．…自分に弾けるかどうか悩んでいる．(Q．これから先は?)まあ，弾けるようになるとかの感じかな．アー，両親がバイオリンを弾いている音楽家で，自分の子どもにもやらせてみたいとバイオリンを贈った．
2	･････えーっと，今，ちょうど，学校か女学校かへ行こうとして，ちょうど，農家で働いている人の横を通って，行こうとしているところ．･･････(Q．もう少し詳しく話してくれるかな?)あの，えーっと，この女の人はこの家(注．背景の小さな家)の人で，この働いている人たちはこの家で雇ってもらっている人．････この人は，この家のおじょうさん．････(Q．この先は?)　…分かんない．
3BM	･･･え，あの，この女の人が，よくテレビであるように，好きな男の人といっしょになりたい，結婚したいんだけど，それを両親に責められて，自分の部屋でひとりで泣いている．････(Q．これら先は?)何か，家出でもするとか，････家出でもして男の人のところへ行くとか･･･．
6BM	えーっと，さっき(注．3BM図)の続きで，････この人がさっきの女の人の女親で，この家がさっきの女の人の家で，女の人の好きな男の人がこの人で．･････この男の人が来て，母親に，あのう，お母さんに何か話して，「結婚を許してくれ」とか話して，断られたって感じで････．そういうふうに，男の人は，さっきの女の人と結婚したいとか･･････．女の人は由緒正しい大家のおじょうさんで，こっちの男の人は身分の低い人で，母親は結婚させたくないと見ている感じ．
7BM	これは，さっき(注．3BM図と6BM図)の続きじゃない．････････えーっと，何か，この人たちは会議をやっている時に，さっきの意見はどうとかこうとか，隣りどうしで話している．････(Q．どんなことを話している?)そのへんは，分からない．･････えーっと，あー，その話とちがって，ほかに，こっちの人が白髪まじりの年とった人が会社の上司とかで，こっちの人に何か仕事を頼んでいる．
8BM	･････････････えーっと，これは鉄砲に見えるし，この人が，どっかでけがでもさせて，･･･けがさせて逃げて，それで，どっかでこの人が手術を受けていると聞いて，それがどんな感じかなぁと想像している．後ろに映っているのは，その想像の景色です．…それとも，自分が手術してもらったのを思い出しているところ．････もしこの人(注．横臥する人)が自分(注．前景の若者)であるとすれば，この人は，自分を撃った人に復讐をしに行く．それで，相手を鉄砲で撃ち殺してしまう．
11	･････････････何か，このへんに怪獣(注．ドラゴン)がいるし･･･．どこか切り立った崖のところで，こういう怪獣が出るから････えーっと，人のいるところまで怪獣が出てこないように，いけにえの動物(注．アニマル)を置いている．これがそのいけにえの動物，ここに人(注．橋の上の人)が，どっかに大急ぎで逃げようとするところ．･････このいけにえの動物は食べられちゃう．そのうちに，よく物語や何かでは，英雄が出てきて，この怪獣を退治しちゃう．英雄が出てきて怪獣を倒しちゃう．････でも，ここでは英雄はまだ出ていない．
12M	あー，この横になっている人が，だれかに殺されたか病気で死んじゃって，あのー，このお父さんがこの人のところに来て，この人の死を悲しんでいる．････(Q．もう少し詳しく話してみて)･････えーっと，この場所は，牢屋みたいなところで，悪いことをしたわけじゃないのに，悪い人に監禁されて殺されてしまった．この人を殺した悪人が逃げた後に，お父さんがその場所を尋ねてやって来て，悲しんでいるところ．お父さんはすごく悲しんでいるというか･･．よく悪い政治家を批判した人が捕まったりするから，この人は悪いことをしている政治家を，その悪いことを世間に知らせようとして，いろいろとやったけど，捕まって，殺されてしまった．それで，残念無念っていうか･････････．
13MF	･････････えっ･･････････････えー･･････････････････････････この人が，部屋に来て，あのー，部屋の中へ入ってみると，女の人が殺されていて，死んでいて，悲しんでいる．女の人はこの人の恋人か何か･･････．これは，さっき(注．12M図)の人がまだ生きているときのことで，それで，この人は，さっきの悪人に自分の恋人を殺されて，その殺された恋人のところに来て，自分の手で悪人を倒したいと，あのー，世間に悪いことをやっていると，世間に公表したいと，決めた．はー，悪人に恋人を殺されたので，その復讐のために，悪いことを公表しようとして，捕まって，牢屋に入れられて，殺されちゃう．残念無念っていう感じ････････．
15	･････････････････この人が，････････あの，多分，お墓だと思うけど，そういうところへ歩いてきて，お墓の前に立って，お墓に話しかけている．････････さっき(注．12M図と13MF図)の続きになっていて，この人はお父さんで，息子の墓に向かって，息子の怨みを晴らしたとか，悪人がどうなったかとか，そういう経過を息子に話している．(Q．もう少し詳しく話すと?)････お父さんが悪人のことを世間に公表して，死んだ息子の思っていたことを実行した．悪人は，死刑になった．そんなようなことを息子のお墓に報告に来た．息子の代わりにお父さんが復讐した．

19	･･･うん?･････････････････(図版回転)･････････････････これ?･････(図版回転)･････････････････どう見ても，これ，･････････これが，船か潜水艦か何かで，今，海面に浮上したんだけど，窓から見たら，嵐で，海が荒れているところ．逆に，ふつうの船が嵐に会って，沈みそうなところ．やっぱり，沈みそうなところです．はい･････．
20	･････････あー，この人が街灯の下で，雪の降っているときに，だれかと待ち合わせをしている感じ．･････････まー，その，待ち合わせの人が少し遅れて来て，いっしょにどっかへ行くとか，そんな感じ････････．
Most Liked Card ･････11図．こういう怪獣が出てきてSFみたいで，英雄が出てきて，怪獣退治する冒険がありそうだから好きです． Most Disliked Card ････15図．嫌いというか，暗い感じがしていやだし･････．影がいっぱいで，お墓がいっぱいで，嫌い．	

資料2　法務省式SCT(少年用第1形式)

刺　激　語	反　　応	刺　激　語	反　　応
こどものころ	川に落ちた	できれば	ここをはやく出たい
友達といっしょになると	つい調子にのってしまう	ともだちは	少ない
お父さん	はこわい	親にしかられたら	あやまる
私が知りたいのは	本当のこと	私はよく人から	バカにされた
よその家にくらべて私の家は	すこし古い	おとな	になりたい
夜になると	ねむくなる	忘れられないのは	川に落ちたこと
家(うち)の人は	すこしうるさい	学校でよくいわれたことは	思い出したくない
私の好きなのは	オートバイ	私の顔	になにかできてきた
私がじまんしたいのは	スキー	誰からもきらわれたら	ひとりになる
先生は	こわい	少女	しゅみ
十年後	はなにをやっている?	ここでは	自分をよく見なおす
お母さん	やさしい	勉強	はあまりやりたくない
学校では	勉強しなければならない	私がいやなのは	人からバカにされることだ
ひまな時	テレビでも本でもみる	私のきょうだい	は兄と弟
少年	マンガ	もし私が	人でなかったら鳥にでもなりたい

資料3　バウム･テスト



(注)　本人の原画ではなく，筆者による模写を縮小したもの．